

〔枕草子〕^三草は

よもぎいとおかし

〔後拾遺和歌集〕^{十一}女にはじめてつかはしける

かくとだにえやはいぶきのさしも草さしもまらじなもゆる思ひを

藤原實方朝臣

〔新古今和歌集〕^{二十}猶たのめまめちがはらのさしも草我世中にあらむかぎりは

この歌は、清水觀音御歌となむいひつたへたる、

〔平家物語〕^五月見の事

徳大寺の左大將玄つていの卿は、ふるきみやこの月をこひつ、八月^四○^{治承}十年^四あまりに、福原よりぞ上り給ふ、なに事もみなかはりはて、まれにのこる家は、門前草ふかくして、庭上露まげし、よもきがそまあさちが原、鳥のふし戸とあれはて、むしのこるくうらみつ、くわう菊まらんの野邊とぞなりにける、

〔源平盛衰記〕^{二十六}蓬壺燒失事

六日^{治承}○^{二年}八月八條殿モ燒ヌ、此所ヲバ八條殿ノ蓬壺トゾ申ケル、蓬壺トハヨモギガツボト書ケ

リ、入道^{清盛}○^平蓬ヲ愛シテ、坪ノ内ヲ一シツラヒテ蓬ヲ植、朝夕是ヲ見給ヘ共、猶不飽足、ゾオボシケ

ル、サレバ不斜造リ瑩レテ、殊ニ執シ思ヒ給ケレバ、常ハ此蓬壺ニゾ御座ケル、

〔新勅撰和歌集〕^{十七}題不知

平泰時

世中にあさは跡なく成にけり心のま、のよもぎのみして

〔武江産物志〕^藥草多摩川邊ノ産 艾^向ケ岡

〔採藥使記〕^{淡州}下州照任曰、淡路島ニ一種ノ艾ヲ生ズ、此艾ヲ以テ陶器ニ灸スルニ、乍チ其穴ヲ穿ツ、其

火氣ノ強ヨケレバナリ、是レ眞ノ蕪艾ナルベシ、